

# 湯河原ロータリークラブ

## WEEKLY REPORT



### ロータリー： 変化をもたらす

第 2690回 例会  
平成29年9月15日 (金)  
天候 晴れ  
合唱 それでこそロータリー

会 長 石倉 幸久

幹 事 渡辺 久恭

事務所 神奈川県足柄下郡湯河原町宮上566湯河原温泉観光協会内  
TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716

例会場 静岡県熱海市泉107 ニューウェルシティ湯河原  
TEL 0465(63)3721 FAX 0465(63)6401

例会日 毎週金曜日 12:30~13:30

### 会長挨拶

最近、大起水産（だいきすいさん）という会社が手掛けている回転寿司屋が人気を博しております。大起水産は、高い皿だと500円と、激安回転寿司店よりも少し高めの価格設定をしているのですが、依然デフレの世の中で、なぜ「少し高い」大起水産の回転寿司屋が人気なのでしょう。

勿論ネタが良いこともあります、のみならず、まぐろの解体ショーを1日で3回もやるなど、他では味わえない「ライブ感」を大事にされているそうです。

「ライブ感」というのは、表現を変えれば「コト体験」という言い方も出来ると思います。

これだけ便利な世の中で、「モノ」だけで集客するには限界があって、やはり何かしらの「コト体験」が必要になります。

湯河原の活性化のためにも、「わざわざ湯河原まで来ないと味わえない」という「仕掛けづくり」が必要です。是非みんなで知恵を出し合って、ユニークな「仕掛け」を作っていきましょう。

出席報告	ゲスト 1名	ビジター 0名	会員24名
	欠席6(免除者2名)		前回の修正出席率81.82%
	出席率83.33%		前々回の修正出席率91.30%

事前メイクアップ 1名

ゲスト 桂樹庵オーナー 南谷桂子様

### 幹事報告

幹事報告 なし

連絡事項

- 9月18日(月・祝)は地区大会です。商工会館前を9時15分にバスが出発しますのでよろしくお願い致します。

### スマイルBOX

入会記念日 神谷一博君 (11年・H18.9.8)

西山敦君・浅田真隆君・山本明峰君

9月9日・10日城堀産土八幡神社の例祭が好天に恵まれ無事終了しました。

高杉尚男君

昨日、宅建協会の日帰りバスツアーで大相撲観戦してきました。相撲内容はいまいちでした。

9月の第3月曜日の18日は敬老の日なので、75歳未満の会員はスマイル。



SAA伊場野雅代君



室伏学君スマイルBox

西山 敦君

今日は古くて新しい日本の源郷をDVDで見て頂きます。DVDをご覧になってみなさんは「伊勢の神宮」に何を感じますか。

平成25年10月に内宮・外宮共にご遷宮が行われましたので伊勢神宮式年遷宮についてのQ&Aを示してみましたので参考にして下さい。

Q1：神宮とはどんなお宮ですか？

A1：「お伊勢さん」とか「大神宮さん」ともいわれる三重県の伊勢の神宮は、皇大神宮と豊受大神宮を中心とする、日本で最も貴く大きな神社です。

Q2：神宮ではどんなお祭りが行われているのですか？

A2：皇居でおまつりされていた天照大御神を約2000年前に伊勢の地におまつりして以来、どの時代も皇室の弥栄、国家の安泰、国民の平安を祈る祭りが続けられてきました。

Q3：式年遷宮とは何のことですか？

A3：遷宮とは新しいお宮を造って大御神にお遷りを願うことで、式年とは20年ごとに定められた年を意味します。伊勢の神宮には内宮・外宮ともそれぞれ東と西に同じ広さの敷地があり20年ごとに同じ形の社殿を新しく造り替えます。また神様の御装束・神宝も新しくし、大御神に新殿へ御遷りいただくお祭りが式年遷宮で、日本で最大最高のお祭りです。

Q4：大昔からつづいているのですか？

A4：式年遷宮の制度は、今から1300年前に天武天皇がお定めになり、次の持統天皇の4年(690)に第1回が行われました。長い歴史の間には一時の中断(戦国時代)はあったものの、これまでに20年に1度繰り返し執り行われて、平成25年秋に第62回のご遷宮が古式のままだに斎行されました。

Q5：どうして20年なのですか？

A5：定説はないのですが、その推定される理由に、まず20年は人生の一つの区切りであり、また、技術を継承するためにも合理的な年数であり、掘立柱に萱の屋根という素木造りの神宮の社殿の尊厳さを保つためにもふさわしい、とか中国の暦学から伝わったという説などありますが、大切なのは20年に一度造りかえられた、常に新しくみずみずしいご神殿で永遠に変わらぬお祭りが執り行われるところに大きな意義があるのです。

Q6：現在の建築技術からすると20年では勿体無い？

A6：確かに今の建築技術からすれば勿体無いように思われますが、神宮の式年遷宮は建築物の朽損が理由ではありません。この制度がさだめられたとき、もう奈良の法隆寺は建てられていました。法隆寺は現存する世界最古の木造建築です。当時の技術で立派に永久的な社殿はできたはずですが、しかし、神宮の「唯一神明造」は、いつでも新しく、いつまでも変わらぬ姿を求めて、20年に一度造り替えることにより永遠を目指したのです。20年に一度だからこそ技術も精神も確実に伝わるというところにやはり意義があるのです。

世界中には永遠をめざした石造の古代神殿がいくつもありますが、世界の建築家や文化学者が「伊勢は世界の建築の王座だ」と絶賛しています。

卓話  
西山敦君

Q7：用材はどれほど必要ですか？

A7：遷宮に必要な御用材の檜は約8500立方メートル、1万本余りです。なかには直径1m余、樹齢400年以上の巨木も用いられます。また屋根に葺く萱は23000束、神宮の萱山で8年がかりで集めます。

Q8：文化的意義も大きいのです。

A8：式年遷宮には約800種、1600点の御装束・神宝を古式のままだに新しく作りお供え致します。これらの製作は木工、金工、漆工、織工などその時代の最高の技術を駆使する美術工芸家をお願いします。

Q9：費用はいくらかかりますか？

A9：式年遷宮は国をあげての最大のお祭りです。戦後は政府と神宮の関係が絶たれたので、昭和28年の第59回式年遷宮以来、国民の真心込めた浄財によりご奉賛申し上げることになりました。平成25年の第62回式年遷宮では、木取り作業の見直しを始め、経費節減に檜の大径木や特殊な伝統技術を要する御装束・神宝奉製費の高騰などにより、550億円の経費がかかり、その内220億円を、奉賛会で募財しました。

Q10：とりこわした古材や、撤下の神宝類はどうするのですか？

A10：今も昔も、伊勢の神宮といえば思い起こされるのが五十鈴川と宇治橋。宇治橋には、外と内に二つの大きな鳥居が建っています。この柱は、内宮と外宮の御正殿の棟持柱として20年間使ったものを、削りなおし再利用しています。そのまた20年後は、昔の伊勢街道の入口、関の追分と桑名七里の渡口の鳥居として、20年間再々利用します。これはほんの一例で、ほかの古材についても全国各地の神社の再建に無駄なく用いられています。小田原の報徳二宮神社の城址口の鳥居も伊勢神宮の古材を御下賜して頂き建立しました。撤下した御装束や神宝は、明治以前には燃えるものはお焚き上げをし、ほかは土中に埋めていました。今日ではすべてを保存し、神宮徴古館(神宮の博物館)で一部を常時展示していますので、どなたでもご覧になれます。また、外宮の火除橋を入るとすぐ左手に「せんぐう館」がありますので一度見学されるのも宜しいかと思えます。

以上



南谷桂子様



例会風景